

砂川市少年の主張大会優秀賞受賞(空知大会出品)作品



親子

石山中学校2年

山内 紗那

う気持ちで同級生を見ていました。

そして小学校に入学すると、もちろん参観授業や親子レクがありました。親子レクに祖母が参加すると同級生から「紗那ってお母さんいなの？」と聞かれるようになりました。初めは恥ずかしかったり悔しかったりで泣くこともありましたが。

しかし、何十回も聞かれると慣れてしまいました。たまに「へえ、紗那ってお母さんいないんだ。かわいそう」「今日はおばあちゃん、レク来るの？先生とレクすれば？」と気を使ってくるのか、バカにしているのか、そんな言葉が嫌いでした。

母は親子レクに必ず参加してくれました。腰が痛くても、仕事の合間をぬってでも。PTAの役員もしてくれて、行事ごとの挨拶に母が立つと鼻が高かったりもします。洋服を一緒に買いに行ったり、相談に乗ってもらったり、みんなが当たり前のように入っていたことにやっと追いつけたような気がしました。母が家に来てくれたことにとても感謝しています。

最後に母子家庭や父子家庭の子が、みんながみんな幸せになるとは限りません。だからみなさんには、子どもの気持ちを考えてほしいのです。「片親」という言葉に偏見を持ち、バカにする。離婚は親だけの問題ではないこと、子どもは親を選べないことを、すべての人が理解すべきだと思います。

改めて、私は今の母に感謝しています。たとえ血はつながっていなくても、母は私にとって大切な存在です。

3歳の時に子どもの国へ行った時、周りのみんなが自分のお母さんと手をつないで参加しているところに、私だけが祖母と参加しました。また、保育所のクリスマス会ではお母さんたちから子どもたちに歌をプレゼントをするという企画がありました。次々とお母さんたちがステージに上がる中、私は祖母に行ってもらいました。

このように保育所でのレクがある度に6歳に近い祖母が出席してくれたことには本当に感謝しています。

でも、私は心の中で「うらやましいな」とい

現代では年々、母子、父子家庭が増えている傾向であることを皆さんはご存知でしょうか？

母子家庭は約123万世帯、父子家庭が22万世帯で、これは全国調査によるものです。これを調べた時、その数が余りにも多かったことにとても驚きました。

母子家庭、父子家庭ということとは「子ども」もいます。片親になってしまった子どもたちの気持ちを考えたことはありませんか？

私が2歳の時、両親は離婚してしまいました。そして私は2つ上の姉と父の実家で暮らすことになりました。